

えっ! B101音楽練習室は10人までしか入れない!

文化団体連合会

090-2331-4456



文連ツイッター

これじゃ練習は成り立たない! 学館人数制限のココが問題!!

現在、学館施設の利用上限人数に厳しい制限がかけられています。とりわけ音楽練習室は、一番広いB101でも利用可能人数は最大10人!

これでは全体練習はもちろん、パート練習すらままなりません。やむを得ず学外の有料施設を借りざるを得ないサークルが続出し、場所代の負担がサークル員に重くのしかかっています。この状態が続けば、音楽サークルの存続自体が脅かされかねない重大な問題です。

大学当局・学生部は、「感染対策」を理由に、このような厳しい人数制限を設けています。しかし、プロオーケストラが感染症専門家の協力の下に行なった実験では、「感染対策」のために楽器演奏時には「極端な距離は必要ない」という分析結果が発表されています。学生部は、画一的な人数制限を一方的に課すのではなく、実証結果にふまえて各サークルの活動内容に見合った「感染対策」を具体的に講ずるべきではないでしょうか。

音楽練習室の利用人数上限

B102~105→4人 B106→3人
B123. 126→5人 W104. 105→3人
E1016. 1116→2人

※しかもB1廊下での練習も全面禁止されている

専門家による検証結果

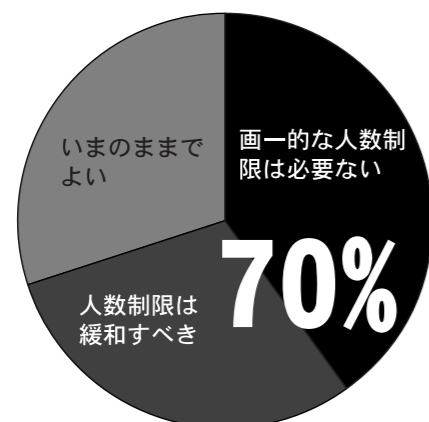
演奏者およびマスク着用下の客席において、従来の間隔の場合でも、ソーシャルディスタンスを取った場合と比較して飛沫などを介する感染リスクが上昇することを示すデータは得られなかった。



感染症専門家の見解でも、「ヨーロッパでは、1.5mとか1mとかのガイドラインがあるようだが、まずは(奏者は)普通どおり並んでも良いのではないか」という声が出ています。学生部のこのような極端な人数制限は必要ないという実験結果が示されているのです。むしろ練習前のミーティングの際の距離のとり方や練習後の楽器の消毒や定期的な換気の徹底が重要であると指摘されています。

出典 「#コロナ下の音楽文化を前に進めるプロジェクト
クラシック音楽演奏・鑑賞にともなう飛沫感染リスク検証実験 報告書」
(クラシック音楽公演運営推進協議会 一般社団法人日本管打・吹奏楽学会 20年8月17日)

学館の人数制限について



文連が行なったアンケートでは、学館の人数制限について、「画一的な人数制限は必要ない」「人数制限は緩和すべき」が70%にのぼります。また実に90%近くが、人数制限はサークル活動に「影響がある」と回答しているのです。

現行の学館人数制限では、およそ活動が成り立たず、サークルにとって死活問題です。すべてのサークルは文連のもとに団結し、学館の人数制限をサークル活動の実情にふさわしく改めさせるために声をあげましょう! みなさんの声をアンケートまでお寄せください。

